



飯田市 歴研ニュース

News Letter

No. 137

The Iida City Institute
of Historical Research

2025年8月1日発行

飯田市歴史研究所

〒395-0803

長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iihr@city.iida.nagano.jp



第22回 飯田市地域史研究集会

2025年9月6日(土) 7日(日)

飯田市役所C棟3階会議室(オンライン併用)

資料代 500円(2日間共通) ※高校生以下無料

主催: 飯田市歴史研究所

農業は飯田下伊那の人々が生きるための大切な基盤です。稲作、畑作、養蚕、果樹栽培など、風土や時代状況に応じて、多様な営みが現在に至るまで積み重ねられ、政治や経済、風俗、景観といったさまざまな点で地域のあり方に影響を与えてきました。今回の研究集会では、農業生産と技術の歴史に着目し、それと結びついた地域の暮らしや社会の姿を、多様な視点から浮き彫りにします。

農業

から拓く

飯田下伊那の

歴史

9/6 (土) 13:00 ~ 16:40

《基調講演》

多和田雅保 (横浜国立大学/歴史研究所顧問研究員)

「農書から見る江戸時代の飯田」

《自由論題報告》

町田良 (京都大学大学院生)

「ゴルフ場ではなくりんご団地へ

—1970年代飯田市龍江における「開発」のせめぎあい」

青島重行 (歴史研究所満洲移民研究ゼミナール)

「祖父青島秋夫の「日記」と満洲移民—ゼミでの翻刻と考察—」

9/7 (日) 10:00 ~ 15:30

シンポジウム「農業から拓く飯田下伊那の歴史」

福嶋紀子 (松本大学/中央大学大学院)

「近世水田の作付け品種—圃場管理と禁じられた稲—」

竹村雄次 (飯田市歴史研究所)

「不二道の思想と農業実践」

寺田一雄 (柳田國男記念伊那民俗学研究所)

「聞き書きからみる生業の民俗—養蚕を中心にして—」

小川秀和 (長野県南信農業試験場)

「南信農業試験場の一世紀を振り返る」

全体討論・意見交換

【司会】安岡健一 (大阪大学/歴史研究所顧問研究員)

《申込内容》

氏名、電話番号、参加方法(会場/オンライン)

※オンライン受講は加えてメールアドレス、郵便番号、住所

《事前申込制》

webフォーム(QRコード)、または飯田市歴史研究所まで、電話・FAX・Eメールでお申込みください。

《申込締切》(受付開始: 8月1日(金)~)

会場参加: 9月4日(木)

オンライン参加: 9月2日(火)

※オンライン参加で、資料代の銀行振込をご希望の場合は、8月22日まで



▲参加申し込みはこちらから

明治30年の米騒動

—黒田騒動リアル—

前澤 健（歴史研究所特任研究員）

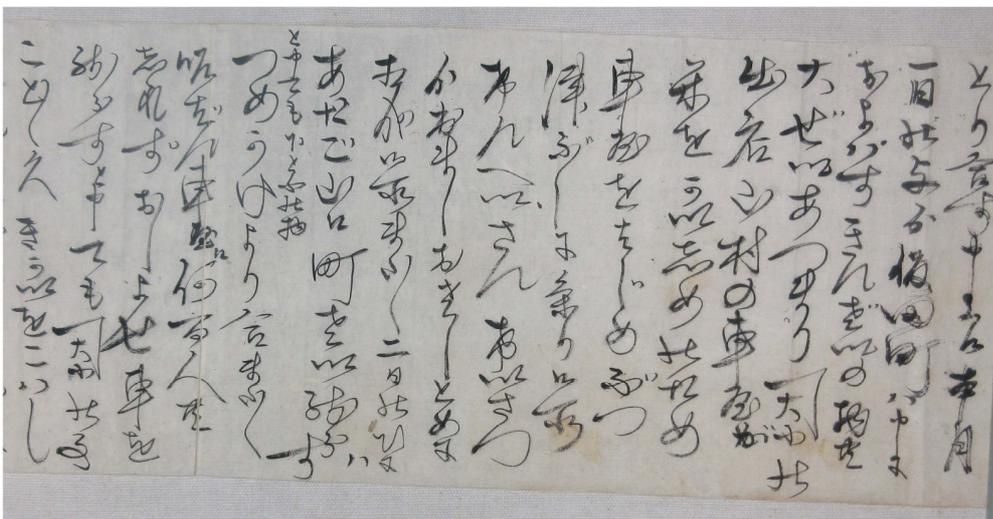
2024年の夏に始まる米価の高騰は、「令和の米騒動」と言われ、私たちに主食の重要性を再認識させる機会となっています。歴史をさかのぼると米価の高騰による騒動は、しばしば起こっています。明治以降では、1918（大正7）年に富山県魚津市から全国に広がった米騒動が有名です。飯田では1897（明治30）年9月の米騒動（黒田騒動）が最大のものでした。

この騒動は、飯田町の商人黒田忠一らが、遠山に入った王子製紙の作業員の飯米用に米を大量に買い付けたことや干ばつなどによる米価高騰などを背景に起こったといわれています。9月1日夕方から始まった騒動は、約2,000人が参加し、精米所や本町にある黒田の家を打ち壊したり、警察署を襲撃したりしながら4日の未明まで続きました。この騒動の概要は、平沢清人が「明治三十年の米騒動」（『伊那の百姓一揆』所収）にまとめています。また、市村咸人らは、1934（昭和9）年に黒田忠一から騒動について聞き取りを行っています（太田仙一「黒田忠一の回想する『黒田騒動』」、「飯田市歴史研究所年報20」）。だが、この米騒動に関する史料は少なく、検討すべき課題も多々あります。

ここで紹介するのは、南信濃和田の佐藤家文書の書簡です。差出人は柳川緑三郎、あて先は佐藤運三です。柳川は、佐藤家の親戚であり、飯田から商品を送ったり、飯田歌舞伎座での観劇に誘ったりするなど深いつながりがありました。

書簡の日付は9月3日で、騒動の真ただ中で書かれたものです。投げ捨てられた商品や切り取られ放り出された柱で歩くことができない本町の様子、騒動の参加者を切りつけた警察への「昨ばん（晩）きず（傷）をつけし人の名を申」、「そなるわ（分）からぬけいぶ（警部）なればたゞきころせ（叩き殺せ）」など参加者の具体的な言葉が書かれています。騒動の流れは、平沢氏の論考から外れるものではありませんが、その内容は現実の騒動を見た者でしか書けないものです。緑三郎は、封筒の表に「無事」と書いており、佐藤運三に騒動に巻き込まれていないことを伝えようとしたことも伺えます。

黒田騒動に関する史料は、多く残っていません。騒動の様子をリアルタイムに伝えるこの書簡は、黒田騒動の検討していく上で重要な史料です。



書簡 冒頭



書簡 封筒

下伊那郡阿南町新野伊豆神社と明治神宮

伊藤 毅（東京大学名誉教授 / 歴史研究所顧問研究員）

ここ数年、再開発反対運動で揉めにもめている明治神宮外苑は、代々木の神宮内苑とセットになる施設で、明治天皇と昭憲皇后を祭神として大正9年(1920)年創設された。内苑の百年の森を含めて、明治神宮のあらゆる施設の維持管理に要する費用の大半は外苑の収入によって賄われている。神宮球場、明治記念館、聖徳記念絵画館などから得られる収益が神宮の屋台骨を支えており、外苑は明治神宮にとって命綱とも言うべき存在である。外苑があくまで内苑と一体的に運営されることは、明治神宮創設にかかわった渋沢栄一や阪谷芳郎率いる明治神宮奉賛会の当初からの思想でもあった。

この神宮外苑は、第二次世界大戦直後、米占領軍 GHQ に接收され、明治神宮への帰属が風前の灯になった時期があった。その時、民俗学者折口信夫が講演で述べた見解「新神道の顕現」が外苑を救う大きな力になったことは、案外知られていない。折口によると、古来神社は社殿を中心とした静謐な社とともに、境内地には信仰の表現として犬追物や笠懸などの芸能を行う馬場が付属することが多く、この内と外、静と動の対比は、明治神宮の内苑と外苑の関係をよく示しているという。

折口が神社の民俗芸能に注目するきっかけになったのは、長野県伊那郡旦開村（現阿南町）新野伊豆神社の雪祭りにおける競馬・天狗舞・田楽とされる。折口は学生を引率してしばしば現地調査を行うとともに、明治神宮でも折口の仲介で伊豆神社の氏子による雪祭り神事が奉納されたことが明治神宮側の記録に残されている。

神宮外苑再開発の反対論者の多くは、もっぱら緑の喪失を嘆くが、外苑は本来、競馬や相撲など芸能の場であり、むしろ青山の都市的な文脈のなかで理解すべきものかもしれない。そして東京青山の神宮外苑と阿南町新野伊豆神社は、それぞれまったく無関係な存在であるが、折口を媒介として、見えない糸によってつながっているのだ。

第3回地域史講座を開催します

満洲移民に至る道—昭和初期の下伊那—

歴史研究所が刊行した『史料で読む飯田・下伊那の歴史4 満洲移民・青少年義勇軍』について、3回に分けて講座を開催します。第3回は、当時の地域有力者や在郷軍人会に着目し、満洲移民前夜の昭和初期の飯田下伊那社会について考えます。

日時 10月4日（土）13:30～15:30

会場 飯田市役所C棟3階会議室

報告 伊藤悠（歴史研究所研究員）

「国民精神作興会と軍教問題対談会」

粟谷真寿美（歴史研究所市民研究員）

「満洲事変と中原謹司の政界進出」

竹村雄次（歴史研究所特任研究員）

「日露戦争三〇年記念と『川路村従軍記念録』」

《申込方法》

電話・FAX・Eメール

※氏名、電話番号、受講場所（会場・オンライン）

およびオンライン受講の場合はメールアドレス

《申込締切》

会場参加:10月2日（木）

オンライン参加:9月30日（火）

※受講料無料



建築史ゼミ活動報告

東中央通散策 (5月18日)

岩田 会津 (歴史研究所研究員)

建築史ゼミの参加メンバーとともに東中央通地区の散策を行いました。地区中央を直線状に通る国道 256 号線は、大正 14 年に谷川筋を盛り土して築かれた道です。その法面には道路からせり出すように家屋が並び、特徴的な景観を作り上げています。この町並みは飯田大火後の人の移住により成立したと考えられ、地区を歩くとその時期に建てられた家屋がいまも何軒か残されているようでした。今後は古い家屋の建築調査も視野に入れ、引き続きこの地区でのフィールドワークを進めていきたいと考えています。



散策の様子

定例研究会

昭和初期の松川入山林(仮)

報告者 伊藤 悠 (歴史研究所研究員)

開催日 9月27日(土)

会場 歴史研究所 研修室

時間 14:00~16:00

※聴講をご希望の方はお電話ください。

取講生募集中!!

歴研ゼミ&ワークショップ8月・9月の予定

会場：歴史研究所 研修室

8・9月は変更と休講がありますのでご確認ください

近世史ゼミ

「飯田御用覚書」を読む

担当:羽田 真也(研究員)

8月27日/9月10日・24日

(第2・4水曜日) 18:30~20:30

※8月14日のゼミは休講になります

建築史ゼミ

身近な空間の歴史を調べてみる

担当:岩田 会津(研究員)

8月22日/9月19日

(第3金曜日)

※8月15日のゼミは8月22日に変更します

地域史ゼミ

大正期 LYL 事件の刑事記録を読む

担当:伊藤 悠(研究員)

9月11日

(第2木曜日) 13:30~15:30

※8月14日のゼミは休講になります

思想史ワークショップ

清水幾太郎『天皇論』他の輪読と論議

市民の皆さんが自主的に学び合う場

8月6日・20日/9月3日・17日

(第1・第3水曜日) 19:00~21:00

満洲移民研究ゼミ

文書・記憶・個人の記録から考える

担当:本島 和人(調査研究員)

第163回 8月2日/第164回 8月30日

(第1土曜日) 10:00~11:40

※9月6日のゼミは8月30日に変更します

近現代史ゼミ

昭和11年胡桃澤盛日記を読む

担当:田中 雅孝(調査研究員)

9月27日

(第4土曜日) 10:00~11:40

※8月23日のゼミは休講になります

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。 TEL: 0265-53-4670

開所時間: 午前9時~午後5時 休所日: 日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日

メール配信をご希望の方は、E-mail: iih@city.iida.nagano.jp まで